

高原 幸雄市議 042-577-3375
尾張 美也子市議 042-574-4356
住友 たまみ市議 042-505-9030



高原幸雄市議



尾張美也子市議



住友たまみ市議



メール jpckunitachi@gmail.com
市議団ホームページ
http://www.jpckunitachi.net/

日本共産党の活動を紹介します。
バックナンバーはHPからご覧になれます。



5・15「格差・貧困社会と子育て」シンポジウム開催 「一緒に声をあげ、政治を変えていきたいと思います！」

5月15日(日) 13時
半から四谷駅近くの主婦
会館プラザエフで、格



講演をする中西新太郎氏(中央)

差・貧困社会と子育てに
対するシンポジウムが開
催されました。

田村智子氏(日本共産
党副委員長・参議院議
員)からは、子供の貧困
をテーマにしたこの間国会で
取り上げてきた課題の報
告がありました。山添拓
氏(参議院東京選挙区予
定候補)が緊急提言とし
て、子供の貧困をなく
し、安心して子育てでき
る社会をめざす3つの改
革案を提言しました。

第1部は、中西新太郎
氏(横浜私立大学名誉教
授)が「格差・貧困社会
と子育てを考える」の
テーマで講演しました。
中西新太郎氏は、講演の
中で、今は貧困問題と結
びついて様々な問題が出
てきている。縦の繋がりが
だけでは対処できないた
め、社会全体で横に繋が
りをつくり受け止めてい

第2部では、各分野で

国立市議会 意見交換会 議員が市民の声をしっかりと聴く機会として

国立市議会の広聴委員
会主催の意見交換会&議
会報告会が、5月13日
(金)と14日(土)に開催さ
れました。

13日は午後7時より
市役所会議室で開かれ46
名の市民が参加、14日は
午後2時より南区公会堂
で開かれ14名の市民が参
加しました。

国立市議会では、昨年
議会基本条例を制定し、
市民に開かれた議会をめ
ざし広聴委員会を設置し
ました。議会として市民

の意見を直接伺う意見交
換会を行っています。会
を重ねるごとに参加者が
増え、市役所では、会議
室がいっぱいの人で埋ま
りました。

会には3つの常任委員会
ごとに市政の施策につい
てのテーマを報告し、
テーマごとにテーブルを
分けて、議員が市民の意
見を伺いました。
総務文教委員会は「ま
ち・ひと・しごと地域創
生ビジョンについて」建
設環境委員会では「複合

公共施設について」福祉
保険委員会では「子ど
も」に関わる施策をテー
マとしました。

福祉保険委員会では、
二会場ともに多くの参加
がありテーブルを2つ
設けての意見交換となり
ました。複合公共施設は
市民の意見を広く聞いて
ほしい、市は現場に入
り、現場の声をしっかりと聴
いて施策を行ってほし
い、保育園民営化はやめ
てほしいなどの多くの意
見が出されました。



市役所で行われた意見交換会のようす

今回は聴覚障害者の方
も手話通訳者と共に多く
参加され、広聴委員会と
しても今後、手話通訳者
の導入を検討していま
す。また、子供連れでも
参加しやすいよう工夫を

の取り組みの報告と交流
として、居場所、子ども
食堂、保育所増設、学習
支援子ども健康などに
実際に地域で取組んでい
る方々より、リアルな実
情の話がありました。
一例をあげると、子ど
も食堂を大田区でやられ
ている「気まぐれ八百屋
だんだん」さんは200
8年に週末だけの野菜販
売を始め、2009年に
近所の子どもを集めてワ
ンコイン寺子屋を開始。
2010年には、母親が
鬱でご飯が作れず給食以
外バナナで食べつないで

いる話を聞き、2012
年から子どもも大人も集
える居場所として子ども
食堂を開始したというこ
とです。現在はこうした
居場所作りの輪が全国的
に広がり、市民主導で行
なわれています。

■□■2016三多摩憲法のつどい■□■ 「現役記者が見た沖縄のいま～基地問題から 考える私たちの平和～」 入場無料

◆5月27日(金)18時開場 18時30分開演
◆立川市女性総合センター・AIM 1階ホール
講師:仲村良太氏(琉球新報 東京支社 記者)

◆主催:2016三多摩憲法のつどい実行委員会
(三多摩法律事務所内 ☎042-524-4321)



し、お子さん連れの参加が
ありました。
各テーマで出された意見
をいかに行政に反映させて
いくかが今後の課題です。
尾張美也子議員は広聴委員
会副委員長として14日は
司会進行を行いました。
日本共産党市議団が参加
し市民の意見を伺いまし
た。

子どもの貧困や、不登校、虐待など子どもをめぐる様々な問題が国立市でも増えています。子供達が健やかに育つ環境作りは大人の責任です。

本来ならば、地域の活力や空家を利用して、市が率先して行うべきです。まだ、そこまでいきませんが、市は、子どもたちの居場所作りを行っている個人や団体に対する助成を行っています。以下は、市のホームページからの抜粋です。

子どもの貧困など様々な問題は、地域の力、横の繋がりも大切です。国立の子供達が健やかに育つために、できることから工夫して始めてみませんか。



子どもの居場所づくりを支援します-居場所づくり事業に補助金を交付します-

国立市では、将来を担う子どもたちが、地域の人とのふれあいを通して、豊かな人間性や社会性を身につけ、たくましく成長することができるよう、地域における子どもの居場所事業を実施する個人及び団体へ補助金を交付します。

補助対象事業

市内において、小学生から18歳までの子どもを対象とし、子どもたちが気軽に立ち寄り、自由に過ごし、活動することができる居場所づくり事業

応募対象

市内で青少年育成の活動をしている又は青少年育成の活動を予定している個人及び団体であること(法人の有無は問わない)

補助金額

1団体・1事業につき35万円を上限とし、予算の範囲内(平成28年度予算額は140万円)

応募・審査方法

- (1)申請書類の提出(補助金交付申請書、事業計画書、予算書等)
 - (2)提案内容の説明(6月30日(木曜日)午後7時より公開プレゼンテーションを行っていただきます)
- (注)詳しくはHP掲載の「平成28年度国立市子どもの居場所づくり事業補助金募集要項」(PDF形式)をご覧ください

応募期限

持参の場合は平成28年6月10日(金曜日)午後5時15分まで、郵送は10日の消印まで有効、Eメールは10日中の受信まで

応募先・問い合わせ

児童青少年課 児童・青少年係まで
電話:042-576-2111(内198、324)
Eメール:sec_jidosyonen@city.kunitachi.tokyo.jp

昨年度の補助を受けた個人・団体

くにたち市民協働型農園の会 はたけんぼ放課後クラブ 農業体験、飼育体験、芸術体験

一般社団法人リング・リンクくにたち 駄菓子や「くにちゃん」 駄菓子屋展開、農業体験、科学教室、歌遊び等

野の暮らし おかえりなさいのごはんやさん 食事づくり、提供

西川義信 Chika-ba(ちかば)—子どものためのプログラミング教室—子ども向けプログラミング教室の実施